

羅針盤

KANSAI GAIDAI KYOSHOKU JOURNAL

教職を目指す学生・卒業生のために

COMPASS

第115号 2016.10.15(土) 発行

関西外国語大学
教職教育センター

SCET

平成29年度教員採用試験

昨年度に引き続き

1次合格者数現役93名

※HP参照

過去最高記録更新

教職教育センター所長 角野茂樹

暑さも和らぎ、少しずつ過ごしやすくなり、秋学期のスタートとともにICCも活気づいています。今朝も学生と警備員さんの「おはようございます。」の元気な挨拶が聞こえてきます。

教員採用試験の2次選考の後半も終了し、最終合格の結果も少しずつ発表されています。

ふり返りますと、学生たちが自主ゼミをスタートさせ、小学校教員コースの学生は去年の11月から教科専門をスタートさせ、中高の英語教員をめざす学生も、一般教養・教職教養・時事問題に取り組んできました。ICCの2階の教室を借り、三つのグループのこれらの取組の輪が広がり、今年度も4月から、中宮・学研キャンパスで「夜スペシャル」「サイスペ」をスタートさせ、そして、学生は夜遅くまで図書館で自主勉強を積み重ねてきました。

8月の初旬に1次合格の発表があり、多くの学生がそれを突破し、盆明けから始まる2次選考にむけて英語討論や模擬授業、個人面接の取組を強化し、全国各地で2次選考突破に向けて奮闘してきました。

学生たちは、一つひとつの山を乗り越え、確実に成長し、社会人として、教師として必要な資質・能力を身につけてきました。随分とたくましくなりました。

一人ひとりの学生が、自分らしく教育への使命感と情熱をもち、児童生徒に愛情を注ぐ教師になるよう、将来の自己実現にむけて着実に歩み始めることを期待しています。

The great teacher inspires.

〈参考〉平成29年度 教員採用試験1次合格者数(現役)集計

(H28.9.13 現在)

平成29年度公立学校教員採用選考テスト1次選考で、現役の合計合格者数が93名(※実人数72名)で過去最高記録を更新したことがわかりました。

参考：科目等履修生7名(実人数5名)

大阪府および大阪市では今年度より教員採用試験が変更され、これまでの教職教養に加えて、思考力・判断力を問う問題(公務員試験レベルの一般教養)が1次試験として加わり、3次試験までとなりました。

教員採用試験選考のこのような変化の中、過去最高記録を更新したことは教員採用試験を受験した学生の努力はもちろんのこと指導された先生方の努力の結晶であると思います。

今年度教員採用試験の合格状況(都道府県別)は以下となります。

現役
中学校・高等学校教諭(英語)
66名(※実人数52名)
 昨年度85名(※実人数57名)

都道府県	合格者数	都道府県	合格者数
大阪府	23名	東京都	2名
千葉県	12名	神戸市	1名
兵庫県	5名	和歌山県	1名
奈良県	5名	北海道	1名
岡山県	4名	岐阜県	1名
山口県	4名	福井県	1名
愛知県	3名	鳥取県	1名
京都府	2名		

現役
小学校教諭
27名(※実人数20名)
 昨年度5名(※実人数3名)

都道府県	合格者数	都道府県	合格者数
大阪府	7名	滋賀県	1名
大阪市	6名	千葉県	1名
京都府	2名	東京都	1名
兵庫県	2名	愛知県	1名
香川県	2名	岡山市	1名
京都市	1名	鳥取県	1名
神戸市	1名		

科目等履修生*
中学校・高等学校教諭(英語)
7名(※実人数5名)
 昨年度23名(※実人数15名)

都道府県	合格者数
大阪府	2名
兵庫県	2名
千葉県	1名
愛知県	1名
浜松市	1名

合格者からのメッセージ

すでに最終合格を勝ち取った4年生もいます。早速、合格者からのメッセージをいただきましたので、掲載します。

【合格体験記】

樋口 拓宏 さん 奈良県 中学校 英語科 合格

外国語学部英米語学科 4年生

皆さん、こんにちは。この度奈良県の中学校英語教員として採用していただきました樋口拓宏と申します。教員採用試験を終えて今は落ち着いた日々を送っています。「教員になる」というのは私が中学生の時から目標でした。教員採用試験に合格するまでにたくさんの事に取り組んできましたが、ここでは私が思う、取り組んでおくと良いなと思う3つの事を書かせて頂きます。皆さんにとって少しでも参考になる部分があればと思います。

一つ目は教員採用試験までにできるだけ多くの事を経験するという事です。私自身、アメリカへの一年間の留学、留学先でのボランティア、旅行、関西外大で参加した大阪中学生サマーセミナーなどを経験しました。なぜ多くの経験をしておくと良いのかというと、いくつか理由はありますが、大きく二つあります。一つは、自分自身を高められるということです。もう一つは、教員採用試験で多くの事を語る事ができるということです。多くの人を受ける教員採用試験では人と違うことを話す事が大切だと思います。さらに将来、教壇に立った時にも生徒に様々なことを教えることができると思います。

次に、あなたがなぜ教員になりたいのかを考えることです。つまり、教員になってあなたが何ができるのか。また、何をしたいのかを決めておくことが重要だと思います。あなたができること、したいことはたくさんあると思いますが、大きな軸として一つ決めておくと良いと思います。私は自分の教育理念として、「情熱を持ち生徒と関わること。」としています。決して、目を背けず生徒と向き合い、生徒の夢や目標を共に達成することなどがここでの「情熱を持つ。」ということに当てはまります。私だけではなく、生徒達にも情熱を持ち様々なことにチャレンジして欲しいということも含まれます。

三つ目は、日ごろから教育に関わる様々な事項(特に教育問題)について考え自分の答えを持つということです。私は、留学先で関西外大と他大学の教職メンバーで週に一度、教育について話し合う時間を作っていました。ディスカッションでは様々な考えを出し合い、教育について考えることができました。他の人の意見を聴くと自分とは違った視点から考えることができるのでとても良いと思います。時には教職を勉強していない人からも意見を聴くことも良いと思います。

以上3つを紹介しました。少しでも皆さんに役立てて頂けたらと思います。方法は一つでも二つ

でも三つでもなく、たくさんあると思います。ですから、様々なことに取り組んでみてください。

最後に、教員採用試験のみならずこれまでサポートして下さった関西外大の先生方、そして職員の皆様、先輩同期後輩、家族、そして友人、本当にありがとうございました。

室屋 和輝 さん 京都府・奈良県 中学校 英語科 合格

外国語学部英米語学科 4年生

みなさん、はじめまして！外国語学部英米語学科4回生の、室屋和輝と申します。今年度の教員採用試験を受験し、京都府と奈良県から、合格をいただきました。今日は、主に、来年度の教員採用試験に向けて、頑張っている3回生のみなさんの参考になればと思い、私が教員採用試験に向けて行ったこと、どのように準備をしたかななどを、たいしたことではありませんが、2つ書きたいと思います。少しでも、みなさんの参考になればうれしいです。

まず、私が教採に合格できた理由は何か考えたとき、最初に頭に浮かんだことは、自主ゼミです。自主ゼミ活動は、去年の秋ごろから始めました。私が所属する自主ゼミには、個性豊かな仲間がたくさんいて、この仲間たちのおかげで、辛いはずの教採も、楽しく乗り越えることができました。また、自主ゼミでは、週一回、教育時事や、新聞記事を題材にしたディスカッションを行ったり、教職教養と一緒に勉強したりしました。このように、3回生の頃から、ゆっくりですが、こつこつと積み重ねたことが、試験で活かされたことが、一番大きかったです。みなさんもぜひ、一人で勉強しようと思わず、教職の仲間とゼミを組んで、楽しく、自分の能力を高め合ってください。

次に、頭に浮かんだことは、教職の先生方の手厚いサポートです。関西外大の先生方ほど、私たち学生のことを思い、熱心に指導して下さる先生方はいません。ですので、みなさんは安心して教採の準備を進めてください。何か分からないことや、不安なことがあれば、すぐに先生方に相談しましょう。いつでも優しく話を聞いてくれます。実際、私も何か分からないことや、試験で不安なことがあったときは、角野先生や、ゼミの友達にたくさん相談しました。それが、心の支えにもなりました。また、私たち教採を終えた、4回生にもどんどん相談してください！きっと、それぞれの経験をもとにした、アドバイスをくれます。このように、関西外大は、教員を目指すみなさんにとって、最高の環境です。この恵まれた環境を十二分に利用し、先生方や、先輩方や、同期から、教採に関する情報をたくさん集めることが、合格するためには大切です。

最後に、教員採用試験は、一人で勉強して合格を勝ち取ることは、難しいと私は思います。もちろん、一人で英語や、教職教養の勉強をする時間も必要です。しかし、集団討論や、面接のための練習は、一人ではできません。同じ志を持った仲間と共に頑張ることは、とても心強いですし、モチベーションにも繋がります。ぜひみなさんも、仲間と一緒に教員採用試験を乗り越えてください！心から応援しています。

篠原 隆輔 さん 香川県 小学校 合格

英語キャリア学部英語キャリア学科小学校教員コース 4年生

みなさん、こんにちは。この度、来年度から香川県で小学校教員として働かしていただくことになりました英語キャリア学部英語キャリア学科小学校教員コース四回の篠原隆輔と申します。試験に合格でき、今までお世話になった教職教育センターの方々や、先生には感謝の気持ちでいっぱいです。私は一回生の頃から本当に勉強をせず、遊びやアルバイトばかりしていました。ボランティアも短期間行っただけで、中高の英語の免許も取得できませんでした。しかし、そんな私ですが大学に入って、自分のことをより客観的に見ることができるようになりましたし、自分の思ったことを素直に人に伝えることができるようになりました。香川県はたまたま、加点制度がなかったため、一般の受験生は同じスタートラインでした。もし、加点制度があれば私も合格していたかは分かりません。ありのままの自分で試験に臨みました。ですが、私も何も対策をせずに望んだわけではありません。

この羅針盤を通して、私が自分なりに実践したことをみなさんにお伝えします。

①自主ゼミで同じ目標を持った仲間と学習する

勉強の方法には自分にあったスタイルがあります。私も普段は一人で勉強する方が好きです。ですが、毎日とは言いませんが週に何回何時間と決めて、小テスト、面接対策をみんなで行って欲しいです。仲間と競い、仲間と情報を交換し合い、ライバルでもありますが全員で合格するという気持ちでゼミ活動を行うことで、教員採用試験までのモチベーションを保てます。ゼミでは多くのことを吸収できます。私がゼミ活動を本格的に始めたのは2月ですが、早ければ早い方が良いです。

②外大の施設、サポートを全面に活用する

私はいつも ICC の教室で勉強していました。教職教育センターもあり、教採の情報も随時聞くことができます。先生方にもピアノ練習、面接練習、模擬授業対策などを見てもらいました。教職の先生方は常に私たちのサポートをしてくれますので、迷ったら相談して欲しいです。教職のプロフェッショナルの方々なので絶対に自分のプラスになります。夏休みのお盆中も ICC でみんなまで勉強したことも今では良い思い出です。

③効率よく勉強する

私は勉強を始めるのが遅かったぶん、無駄なことはほとんどしなかったです。各自治体で試験の内容は違います。教職教養、専門教養の配点を理解して、勉強時間の配分を考えました。また、満点を目ざさず、合格ラインが7割の自治体も多いので、過去問を解きボーダーを超えていた科目はあまり勉強せずに、苦手な科目を重点的に勉強しました。面接練習も闇雲にするのではなく、傾向を調べ、質問に対しての回答をキーワードで考えていました。

私はこのように対策をしてきたのですが、教員採用試験は面接の配点が本当に大きいです。自分の力を本番で発揮できるようにポジティブなメンタルを持つことが本当に大切です。合格は自分だけのものと考えず、今まで育ててくれた家族、大学の方々、その他自分を支えてくれた人たちへの恩返しだと思って学習に取り組んで欲しいと思います。篠原さんでも合格したのだから、自分でも絶対合格できるという強い心を持って、自分のやるべきことをやりましょう。何度も言いますが、一番大切なことは心です。みなさんの教師になりたいという気持ちをぶつけてください。お読みいただきありがとうございます。

渡邊 恵奈 さん 京都市 小学校 合格

英語キャリア学部英語キャリア学科小学校教員コース 4年生

皆さん、こんにちは。英語キャリア学部英語キャリア学科小学校教員コースの渡邊恵奈です。この度、京都市の小学校英語教育推進枠で合格を頂くことができ、来年度から小学校教員をさせて頂きます。私からは、二点に絞ってアドバイスをさせて頂きます。

まず一点目は、早くから自分の目ざす教員像を思い描き、それに向かって努力しておくことです。私は、小さい頃から英語を学ぶことや異文化に触れることが好きで、中学校から外国でホームステイを経験したり、日本で外国人との交流ボランティアをしたりしていました。将来は、小学校教員になりたいとずっと考えていたのですが、さらに英語や自分の好きなことが生かせたらと思っていました。いつの日か、外国語大学卒業生としても、小学校英語の推進のための貢献をしていきたいと願うようになり、そう決心がついてからは、カンボジアで小学生に日本語と英語を教えるボランティアをしたり、オーストラリアでチャイルドケアのボランティアをしたり、日本でも小学生対象に英語を教えるボランティアなど様々な経験をしました。その経験はすべて、私の夢に関わるものでありやってきてよかったと思います。早くから、将来教員になってどのようにになりたいか考え、行動を起こしてください。

次に二点目は、勉強方法についてです。私の一次試験は筆記で、一般教養、教職教養、小学校全科でした。これは、自治体によって様々ですから、早くから自分の受験する自治体の試験分析を行って下さい。私は、この莫大な勉強範囲をどのように勉強したらよいか分からずとても不安でした。特に、理数科目は苦手であり、本当に苦労しました。仲間と一緒に夜遅くまで一緒に勉強し、教え合いをしたり、テストをし合ったりして、出来ることを少しずつ増やして行きました。勉強する上で、仲間の存在はとても大きいです。頼れる仲間を作り、教え合いをすることをおすすめします。また、この莫大な量の勉強は、本当にコツコツが大切です。どの範囲も参考書を何周やったか覚えていません。それくらいやりました。二次試験対策と同様のことが言えます。辛くなることも沢山ありますが、仲間と励まし合いながら、戦ってください。

最後に、私は「ALL IS WELL (きっと、うまくいく)」という映画が大好きで、この映画を見てから、苦境に立ったとき、呪文のように「ALL IS WELL」と唱えています。笑 もちろん、何もせずうまくいくなんて言いません。努力に努力を重ねてください。最後に自分の正念場に立

った時に、今まで自分がやってきた努力を思い出し、「ALL IS WELL」と唱えてください。ここまで、えらそうなことを言ってきましたが、結果発表で自分の受験番号を見るまでは、不安で押しつぶされそうでした。合格できたのは、私を支えて下さった先生方、共に励ましあって戦った仲間、教職教育センターの方々、先輩方、後は、最後まで絶対にぶれなかった自分の信念があったからです。皆さんも、自分の夢のために全力で努力をして、夢を叶えてください。きっと、うまくいきます。

シリーズ⑪ 「心の窓を少し開いて！」

短期大学部 教授 明石一朗

《子どもの評価》

子どもも大人も褒められるとうれしいものである。人は他者から「見られ、認められ、あてにされる」時に元気が出る。そもそも、評価育成は、当人の意欲や向上心を育むことに主眼がある。萎縮させたり、過度な競争を煽ったり、圧力をかけるためにあるのではない。

学校教育の場では、3つ叱って7つ褒めるという原則がある。褒めるにしろ、叱るにしろ、要は、当人が良い方向に向くようにすることが大切だ。愛のない暴力的な怒りやうわべだけのおべんちゃらは意味も効果もない。それらは、反感や不信をつくるだけである。

子どもを肯定することが教育指導である。本校の玄関も「校庭」からはじまる。全てに秀でる子どもがいないように、全てがダメな子どもは一人もいない。日々の学級指導で「誉め、励まし、値打ちづけること」を忘れないでいたい。

それには、一人ひとりの子どもの「いいところ」をどれだけ見つめているかがポイントになる。思いがけない子どもの行動にも「わけ」がある。遅刻・立ち歩き・エスケープ・指示が入らないなどの子どもの問題の背景にあるものを探りたい。結果の原因を把握すること。事実をていねいに分析し、じっくりと指導すること。すると、「この先生には嘘がつけない」と、子どもが教師に一目置くようになる。また、褒める時は、間髪入れずにタイムリーに具体的にしなければならない。「間」が大切だ。毎日の宿題を何日後かに、ため込んで○つけすると、いっぺんに「忘れ物」が増えてしまう。子ども理解の観点としては。

- ①子どもは一人の人格者と理解する。
- ②子どもの固有のもの（名前・生活・個性・得意なこと等）を大切にする。
- ③子どもを暮らしの中で見るとみる。
- ④子どもを学級という集団の中で見るとみる。
- ⑤どの子どもも「伸びる」という確信をもつなどである。

子どもが、「元気をなくす言葉」としては、①「君にはムリだ。」②「勝手にしなさい。ほっとくからね。」③「レベルが低いねえ。」がある。

反対に、「元気が出る言葉」としては、①「あなたのしたことは、みんなのめざしていることだ。」②「人には、それぞれ個性があるからね。」③「先生でよかったら、いつでも話を聞くよ。」である。

編集後記——教職教育センターより——

秋の代表的な味覚といえば、さんまです。

さんまは、皆さんご存知の青魚で、さんまの身にはDHA やEPA、ビタミンD、E 豊富に含まれます。

皆さんは、さんまのハラワタまで食べますでしょうか。

苦手な人も多いのではないのでしょうか。

さんまのハラワタにはビタミンA が豊富に含まれます。

ビタミンといえば、ビタミンACE（エース）。ビタミンA、ビタミンC、ビタミンE を指すのですが、美肌、老化防止に積極的にとりたい栄養素です。

さんまに大根おろしとレモンをかけて、しっかり食べるといいですね。